

ドーム菊講座を開催しました

秋の市民文化祭に向けてドーム菊を育てきれいなお花を飾ろうと、ドーム菊の育て方講座を開催しました。

教えていただいたのは日本園芸協会の菊花園芸士の平田 徳次郎先生(右写真)です。

1日目の5月14日は、ドーム菊の挿し芽を行いました。

- ①サイズ約縦8cm、横12cm、高さ7cm位のプラスチックトレイの底辺に直径3mmの穴を15個(3×5)開け、その中に鹿沼土小粒と軽石小粒を1：1で混ぜ合わせたものを深さ5cm位迄で入れ、水をたっぷりかけ、30分くらい置いた『挿し芽床』を受講者一人一人に用意しました。
- ②受講者は、平田先生が育てたドーム菊(親株)の芽をいただき、その芽の先端の葉を3枚ほどの残し、5～6cmでカッティングしました。これを挿し穂といいます。この挿し穂の基部に発根剤の入った泥(砥の粉)団子を2mm程度の厚さで均等に付けました。赤・黄色のドーム菊3本ずつ計6本の処理を行いました。
- ③受講者は6本の泥団子の付いた挿し穂を挿し芽床に慎重に植え付けました。



受講者は、この後自宅での管理の仕方を教わり、自宅に持ち帰りました。

2日目の6月11日は、約4週間かけて発根させた挿し穂を3号

ポットに移植しました。受講者は、6本の挿し穂を上手に育て根が発根していました。しかし、中には、うまく発根しなかった挿し穂もあり管理が難しかったとの声も聞かれました。

①受講者は平田先生が調合してくれた培養土（バーク入り腐葉土4：赤玉中粒1：赤玉小粒3：パーライト小粒1：くんたん1）を3号ポットに約300ml入れました。

②次に受講者は、挿し芽床より挿し穂をゆっくり抜き、発根した根の長さを2cmに整え、3号ポットに慎重に植え替えました。ポットの外側を強く押し込むのが上手に植え替えるコツだそうです。



挿し芽床からゆっくり挿し穂を抜き、根の長さを2cmに整える。



抜いた挿し穂を培養土の入った3号ポットに移植する。

植え替えたポットを家に持ち帰ったら、活力剤の入った水を十分に与え、5日間は水をやらない。約1か月後、ポットの底穴から根が見えるようになったら、7号鉢に定植するように教えていただきました。受講者は、自宅での育て方を平田先生に詳しく聞く姿が見られました。最後に平田先生から、上手に育てて、ぜひ、10月下旬の市民文化祭には展示しましょうと声をかけていただきました。